

RUBeC 演習を終えて

松本 悠希

Yuki MATSUMOTO

機械システム工学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は、2017年8月19日から9月4日までの期間で龍谷大学の留学プログラムのひとつであるRUBeC演習に参加し、アメリカ合衆国カリフォルニア州のバークレー市にあるJodo Shinsyu Centerにて、英語のライティングとプレゼンテーションスキルについて学習しました。また、現地の企業および、龍谷大学の協定校へ訪問したことで、海外の企業・大学の様子を知ることができました。

2. プログラムの目的

私がこのプログラムに参加した目的は、国際学会での発表を目標とした英語論文執筆のための英文法と英語でのプレゼンテーションスキルについての学習を行うためです。また、2週間の海外生活を経験することにより、海外の文化・慣習を学び、自身の視野を広げるためです。

3. 授業内容

3.1 テクニカルライティング

テクニカルライティングの授業では、事前に作成した英語要旨を校正するための技術系文章における英文法や文の構成について学習しました。英語の文章には曖昧さがなく、常に結論から示していくため自分の研究を見直すきっかけにもなりました。英語論文では、基本的に「I」や「We」のような主語を用いないため、受動態をうまく使用することが重要であることがわかりました。また、文章間をつなぐための接続詞を学び、これらを適切に用いることで複数の文章で自分の論理を展開していく方法を学びました。さらに、英語論文では同じ表現を避ける傾向にあることを知り、ひとつの事象をさまざまな言

葉を用いて表現する必要があることに驚きました。また、日本語に比べて時制が非常に重要な要素であり、これが間違っていると混乱するため、より正確な表現が必要でした。最終授業では、1対1の発表形式でAbstractを説明しました。発表では、専門用語を使うと相手が理解できないため、簡単な表現を用いる工夫が必要だと感じました。また、最後の数人では私の説明で研究内容が伝わり、発表回数と相手のことを考える重要性を学びました。

3.2 プレゼンテーション

プレゼンテーションの授業では、英語の発音や効果的なスライドの作成方法について学習しました。最初の授業で2分間のスピーチを行い、自分の発音の癖や、表現方法の指摘を受けました。そこから、イントネーション、ジェスチャー、アイコンタクトなどについて学び、最終のプレゼンテーションの完成度を高めていきました。私は、発音に苦戦し、相手が聞き取れない英語では何も伝えられないと感じました。授業では、「th, r, l」の発音方法やWord stressについて学習しました。「th, r, l」の発音については、舌の使い方を意識した練習が行われたことで、正しい発音に近づけることができました。Word stressについては、さまざまな単語のアクセントを調べ、発音練習することで学習しました。次に、発表スライドでは情報を載せすぎないことや文字を大きくすることなどを学びました。パワーポイントの修正を受けている様子を図1に示します。主役は発表している本人で、スライドはその発表をサポートするものということを学びました。私のスライドには文章がそのまま書いてあるなど、どちらに注目して発表を聞いていいのかわからないものになっていると感じました。最終発表では、途中からword stressの意識が低下し聞き取りづらい発表になってしまいました。聞き取りやすい発音を意識して英語を喋った経験が少ないため、もっと練習が必要だと感じました。



図1 プレゼンテーション授業の様子

3.3 UC Davis 訪問

龍谷大学の協定校である UC Davis を訪問したことで、海外の学生の学習環境を学ぶことができました。まず、訪問して印象に残ったのは大学の規模でした。日本の大学の規模と比較すると非常に大きく、校内を移動するために自転車が必要であることに驚きました。UC Davis の特徴的な教育方針は、他分野との共同研究にあると感じました。例えば、農学部と工学部の学生や教授が、積極的に交流し研究していました。ひとつの分野だけで仕事をしていくことは難しく、どれだけ他分野と共同してお互いの持ち味を引き出した研究や開発ができるかが問われていると感じました。また、大学内にアイデアを形にするために試作品を作成する部屋があることに驚きました。アイデアをさまざまな人々を出し合い、すぐに形に落とし込み、またアイデアを出し合う。それを何度も繰り返す、という企業でひとつの商品を開発する工程を大学内で授業の一環として行えるのは非常に優れたシステムだと感じました。

4. ホームステイ先の出の生活

ホームステイ先の生活では、当然ですが、ホスト

ファミリーは英語しか話せず意思疎通に苦労しました。その家でのルールや次の日の予定、今日あった出来事など最初はほとんど聞き取ることに必死で簡単な会話しかできませんでした。しかし、一週間ほど経つと会話が少しずつ長くなりコミュニケーションが取れるようになりました。連続して話す、聞くを交互に繰り返し、常に英語で考え英語で話すことは本当に刺激になりました。また、このホームステイの期間に私の誕生日が重なったこともあり、ホームパーティーを開いてくれました。ホームパーティーには RUCeC に参加した友達も招待して、20名ほどの大きなパーティーとなりました。そこでは、アメリカ在住の日系三世の方と話す機会を得て、日本とアメリカの歴史の話の伺いました。

5. おわりに

RUCeC 演習が私にとっての初めての海外でした。2週間という短い期間でしたが、ホストファミリーや諸先生方のフォローもあり、英語を勉強するにはとても良い環境でした。英語論文執筆のための英文法や英語でのプレゼンテーションを常に指導していただきながら、自分のものにしていくことはとても貴重な時間となりました。図2は集合写真です。



図2 RUCeC 2017 メンバーとの集合写真